

北海道

みなとまち紀行

函館編③

第 15 号

空の青さが少しずつ輝きを増してくる 5 月中旬になると、函館山を遠くに眺めながら、石川啄木の詩歌とともに国道 278 号沿いに大森浜を散策したことを思い出します。啄木は、東京から函館の親友宮崎郁雨に次のような手紙を送っています。

函館は如何なる意味に於いても我が第 2 の故郷である。僕は北海道を殆ど一周した。然し函館ほど懐かしい思出のある土地はない。函館の人ほど僕に懐かしく思はれる人がない。僕は東京に住んでいる。然し僕の心は時々函館の空に彷徨ふのである。僕は函館で死にたいと思う。

啄木は生活苦に喘ぎながらも、沈痛な心は函館での懐かしい思い出に安らぎます。

潮かをる北の濱邊の
砂山のかの濱薔薇よ
今年も咲けるや

啄木が遊んだ大森浜にあったという高さ 30m の砂山の面影は、今はまったくありません(地図①)。



大森浜に建つ「石川啄木像」。その奥左に立待岬が見える

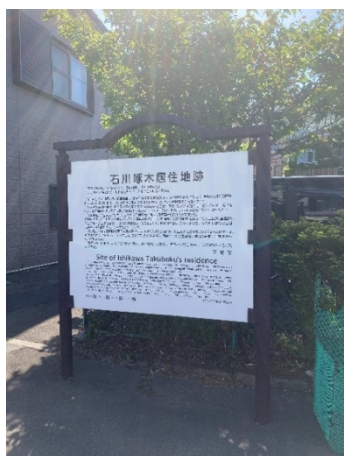
砂山の砂に腹這ひ
初恋の

いたみを遠くおもひ出づる日

明治 38 年(1905)、上京し 20 歳で処女詩集『あこがれ』を出版し得意の絶頂にあった啄木でしたが、郷里の岩手県渋民村にいた両親の電報や手紙に招き寄せられ、年来の恋人であった堀合節子と所帯を持ちました。しかし、禅寺の僧侶であった父一禎は郷里の檀家との間にいざこざがあり寺を出て還俗しており、彼の双肩に一家扶養の重荷が一気にのしかかりました。啄木は郷里で母校渋民小学校の代用教員をしていましたが、明治 40 年(1907) 5 月、22 歳の時に函館に移住し、地元の文学結社首蓆社の同人の大歓迎を受け、そこで宮崎郁雨と知り合いました。郁雨は啄木に向かい「君は若い。僕の思ったより年が非常に若い。けれども其眼の玉がいやに光るので一寸恐ろしい様な気がする。君の眼は人の腸まで見透かす様に鋭い。正直云うと僕は余程圧迫されている」と率直に初対面の感想を述べています。

その年の 8 月 18 日には郁雨の斡旋で函館日日新聞社の編輯局に入り、直ちに日曜文壇を起こした啄木でしたが、同月 25 日に大火で社屋が焼失して失職し、函館を去ります。当時の啄木について郁雨は「其の時の啄木は才気の塊であった。(略)そして実際また進んだ頭脳を持っている。其男が函館、小樽、札幌、釧路と飛び廻って否むしろ追い回されてしみじみと世の中の苦勞を味わった」と述べ、その苦勞を思いやりました。

しつとりと
なみだを吸へる砂の玉
なみだは重きものにしあるかな



青柳町にある啄木の住宅跡

釧路まで流れ着いた啄木は、心機一転上京を決意し、途中、函館に寄り母と妻を郁雨に託しました。そのとき2人は先年住んでいた家の跡を見に行きました(地図⑤)。

あおやぎちょう
函館の青柳町こそ悲しけれ
友の恋歌
矢ぐるまの花

明治42年(1909)3月、24歳で東京朝日新聞社に校正係として入社、6月に家族をまとめて本郷ゆみちょう弓町の床屋の2階に家庭を構えました。そして翌43年(1910)12月初旬、歌集『一握の砂』を刊行して新短歌に再起しました。

こじま いそ しらすな
東海のこじま小島の磯の白砂に
われ泣きぬれて
かに
蟹とたはむる

巻頭のあまりにも有名なこの詩歌から始まる歌集を、郁雨は息をのんで読みこんだことでしょう。直ちに筆を執り、同年12月15日から翌年2月10日まで45回にわたり『歌集「一握の砂」を読む』を函館日日新聞に連載しました。それに対し啄木はお礼エッセイとして『あた郁雨に與ふ』を、2月20日より3月7日まで8回にわたって函館日日新聞に連載しました。当時、啄木は慢性腹膜炎を患い大学病院に入院、その後療養に努めていましたがその甲斐なく、明治45年(1912)4月13日に永眠しました。啄木の遺骨はいったん浅草とうこうじの東光寺に預

けられましたが、節子夫人の希望で函館に移され、大正2年(1913)6月、立待岬に墓碑が建てられました。現在の墓は大正15年(1926)に義弟である郁雨によって建立され、啄木と妻節子、愛児、両親らが眠っています(地図②)。



石川啄木一族の墓

さらに坂を上ると、郁雨が眠る宮崎家一族之奥城(墓)が建っています(地図③)。明治42年(1909)、啄木を物心両面で支える宮崎郁雨は、啄木夫人節子の妹堀合フキと結婚しました。郁雨は家業である味噌製造業を営む傍ら、短歌づくりを続け昭和37年(1962)に亡くなりました。墓の右隣に函館と図書しよりかい裡かい会が建立した郁雨の石碑があります。

まんさん
蹠蹠と 夜道をたどる 淋しさよ
酒はひとりし 飲むものにあらず

さらに坂道を進んだ先には、昭和6年(1931)に与謝野鉄幹(寛)・晶子夫妻が函館を訪れた際に詠んだ歌碑が建っています(地図④)。

はまぎく
濱菊を 郁雨が引きて
根に添ふる 立待岬の 岩かげの土

よさの ひろし
与謝野 寛

啄木の 草稿岡田先生の
顔も忘れじ はこだてのこと

与謝野晶子

岡田先生とは、当時啄木資料の保存に尽力した函館図書館長岡田健蔵のことです。



立待岬に建つ与謝野寛・晶子の歌碑



函館公園。中央奥に日本最古の観覧車が見える

そこから津軽海峡を臨む立待岬を後にし、啄木が幸せな日々を過ごした「函館公園」そばの青柳町にある「石川啄木居住地跡」を訪れました(地図⑤)。そして「函館公園」へ(地図⑥)。「函館公園」は当時のイギリス領事ユースデンが「病人には病院が必要なように、健康な人には休養する場所が必要」という呼びかけに多くの市民が賛同し、日本初の官民パートナーシップによって造成された都市公園で、明治12年(1879)に開園しました。園内には北海道有形文化財である旧函館博物館一号・二号、日本最古の観覧車、北海道初の様式アーチ橋、上水道完成記念の噴水塔、孟宗竹の竹林、「市立函館博物館」があります。



「市立函館博物館」



明治12年に開設された旧函館博物館一号



志海苔の出土銭
(市立函館博物館所蔵)

「市立函館博物館」の玄関を入ると、昭和43年(1968)に函館市志海苔町の工事現場から出土した大きな甕と大量の古銭が目に入ります。その大半は北宋銭です。15世紀ごろ、函館周辺が若狭(福井県)との交易で非常に栄えていた証拠であるといわれています。公園は



青柳町に建つ亀井勝一郎の文学碑。亀井少年が海水浴のため自宅から立待岬に向かったという道端に建つ

春には桜の名所として市民で賑わいます。

「函館公園」前の道を元町に向かって歩いていくと、思想家・文芸評論家として有名な亀井勝一郎かめいかついちろうの文学碑が建っています(地図⑦)。

人生 邂逅かいこうし 開眼かいがんし 瞑目めいもくす

人間の一生とは、人との出会いにより物事の真理を発見し、成長して旅を終えることである、そう語っているようです。その出会いは偶然であるが、前世からの縁によるという趣が「邂逅」の語句には込められています。

亀井勝一郎は明治40年(1907)、啄木が函館に来た年に元町に生まれました。戦前は『人間教育(ゲエテへの一つの試み)』『大和古寺風物誌』など、戦後は『わが精神の遍歴』『愛の無常について』『美貌の皇后』など旺盛な執筆活動を続け、晩年には自身の文学の集大成である一連の日本人の精神史研究に取り組みました。妻子夫人あやこは、「彼の前半生の仕事が拓いた自おのずからな道で、ここに集結するに至ったのは自然だったが、まことに大変な仕事を始めたものである。文学、美術、宗教の3面を知るものでなくては手の付けられないこの大事を、敢えて試みる気になったのも、長い「日本と日本人」への追及の結果で、致し方なしとその果敢を讃え励ますことが妻の役になった」と述べています。さらに、「愛の第一の資格は持続である」といい、「人間に対しても仕事に対しても、時間をかけて注意集中」するべしとした彼は、まことに35年もの間、この寛大な持続の善意で私ごときを許して



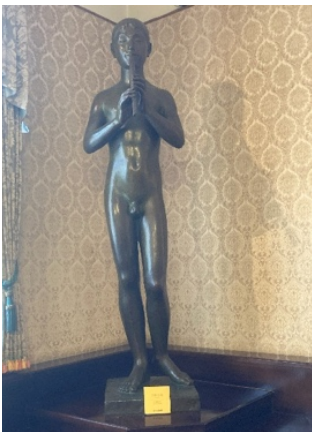
亀井勝一郎生誕の地の石碑

くれたが、あの不可思議なばかりの慈愛と微笑の
 かげに、思想する者となって文筆にたずさわるひ
 との深い苦悩が秘められていることを私も知って
 いた。その微笑によって安堵し、その身边に馥郁と
 香る温風にいのちをあずけて、ともかくも保って
 きたいのちだった。まことにパパはわが家の太陽
 だった（「回想のひと 亀井勝一郎」より）」と勝
 一郎を偲んでいます。また、日本人の精神史の研究
 を進めるにつれ、千年も昔から中国文化の手助け
 によって築いてきた日本文化の歴史の過程が明ら
 かになると、亀井は日本と中国の文化交流にも熱
 心でした。昭和 40 年（1965）には日本芸術院会員
 に推挙されました。妻子夫人の回想によって、青柳
 町の文学碑に込められた心の風景が分かるように
 思われます。亀井の端正な顔立ちと心和ませる微
 笑を思い浮かべながら元町まで足をのぼし、
 大三坂に面する東本願寺別院の一隅に建つ亀井勝
 一郎生誕の地を訪れました。妻子夫人は初めて函
 館を訪れた時のことを次のように回想しています。

昭和 10 年、7 月 7 日に夫に連れられて帰省した。
 私には初めての函館である。（略）長い青森駅のホ
 ームを、荷物を提げてひた走る人々に遅れまいと
 走ったが、あの乗り換えのすさまじさは一度で恐
 れをなした。いるかの群れが船に従って疾んでく
 る船の旅は楽しかったが、船が函館港に入るにつ
 れて、函館山の中腹に立ち並ぶ異国教会の色とり
 どりの屋根と尖塔が見えてくると、彼の瞳は輝い
 た。「ホラ、あそこがうちだよ」と嬉しそうだった。

また、妻子夫人は亀井の生家とその周囲の情景
 を次のように回想しています。（略）彼の生家は元
 町の大三坂と呼ばれる広い坂に面した旧外人居留
 地にあり、外国教会群と隣接して、特殊な異国情緒
 のある町である。すぐ隣はフランス人の神父がい
 るローマカソリック教会で、その隣はロシア系の
 ハリストス正教会、ここの鐘が今は駿河台のニコ
 ライ堂に移されている。この 2 つの教会堂は 50 メ
 ートルもある塔を持っていて、青や赤の屋根と共
 にその尖塔は、連絡船が津軽海峡から港に入ると
 甲板から目に入る。彼は帰郷の度に甲板に立って
 この故郷の象徴のような塔を眺めて微笑を見せた。
 教会即ち生家を望むことであるのがすぐ解った。
 高台にある亀井家の 2 階の窓からも、津軽海峡一
 帯や、入港してくるお船が目の前に望めるのであ
 った。

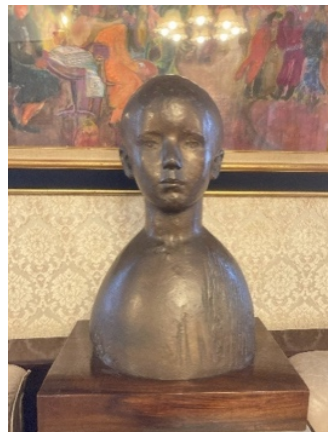
そこから亀井家の家族がよく食事に訪れたとい
 う明治 12 年（1879）創業の老舗レストラン「五島
 軒」でコーヒータイム（地図⑧）。店内に置かれた彫
 刻家舟越保武・桂親子の作品が、訪れた客をやさ



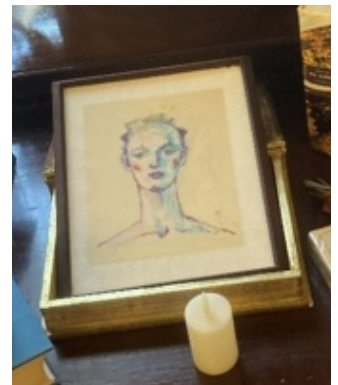
舟越保武作「笛吹き少年」



舟越保武作「少女」



舟越桂作「少年」



舟越桂の作品



東浜栈橋に建つ「北海道第一歩の地碑」。亀井少年が飽かず外国船を眺めた場所

しく包みます。

「五島軒」を後にし、初夏の穏やかな海風を頬に受けながら「北海道第一歩の地碑」が建つ東浜栈橋（旧栈橋）に佇みました（地図⑨）。亀井勝一郎は、函館のたそがれの栈橋の手すりに寄りかかって外国船の出入りを見入った頃の、手すりの感触を覚えていると随想『思想の花びら』に書いています。今は国際クルーズ船の寄港で賑わう港ですが、当時の亀井少年は、遙か外国からやってくる船にどんな思いを乗せて眺めていたのでしょうか。

栈橋から函館山を振り返り、山頂にロープウェイが伸びる「FM いるか」の建物に向かいました（地図⑩）。「FM いるか」は函館山ロープウェイ株式会社が運営するコミュニティー放送の愛称で、放送エリアは函館市、北斗市、亀田郡七飯町の人口約32万人、15万世帯です。

玄関でチーフパーソナリティの中野由貴さんが爽やかな笑顔で迎えてくださいました。中野さんは広島県のご出身で、14年前に縁あって東京から函館に移り住んだということです。初めての北国体験は覚悟をしていたものの寒さと雪の印象は強



「FM いるか」チーフパーソナリティの中野由貴さん



稼働する日本最古の「元町配水場」

烈だったようで、地元の方々に函館生活のノウハウを教えていただいたそうです。通勤もそれまでの自転車からマイカーに変わり、活動範囲も格段に広がったようです。地域コミュニティは地域の人たちに密着した情報を双方向で伝え合うところに魅力がありますが、地震や津波発生などの緊急時に必要な情報を発信し、地域の人々の安全と安心に役立つことが基本になるということです。

また、函館山の自然と教会群など歴史的建物が立ち並ぶ元町は魅力がいっぱいで、道路を挟んだ山側には明治22年（1889）に建設された「元町配水場」が現在でも稼働しており（地図⑪）、場内では「樹齢100年を超えるといわれる2本のソメイヨシノが見事な生命の花を咲かせています」と写真を見せて説明してくださいました。

函館山の美しさだけでなく、仰ぎ見る夜空についても「函館山からの夜景と共に見る、満月も絶



函館山から、津軽海峡を昇る満月を望む
（撮影：星のソムリエ 那須弘之さん）



満月が照らす津軽海峡の海面に、本州と北海道をつなぐ光の橋が架かる
(撮影:星のソムリエ 那須弘之さん)

品です。函館は海（津軽海峡）から満月が昇る貴重な場所です。山頂や立待岬からは、満月と共に海面を輝かせる月の道も見えますので、おすすめです。最近は〈星のソムリエ〉の方から教えていただきながら、月や星を観測する楽しみができました」と話してくださいました。〈星のソムリエ〉は正式には「星空案内人」という資格を持つ人の愛称で、星空や宇宙についての科学的知識と観測の技術、文化的な背景を分かりやすく伝える能力を認定された人に与えられます。その〈星のソムリエ〉が認める



常盤坂に建つカフェ「ごはんおやつシンプル」

健康的でおいしい「ごはんおやつシンプル」のランチ



「ごはんおやつシンプル」の落ち着いた店内

函館の空ですが、曇りの日が多く満月を観測できる日が少ないと残念そうでした。中野由貴さんのインタビューから、日常生活に彩を添える情報を発信しながら緊急時の備えに怠りなく、しかも星に夢を紡ぐ生活を楽しんでおられる様子を伺うことができました。

「FM いるか」のあとは、^{ときわさか}常盤坂の途中にあるカフェ「ごはんおやつシンプル」で昼食です(地図⑫)。古民家を改装し、店内は狭いながらも温かな懐かしい雰囲気があり、昔のミシンや天井の梁、^{はり}テーブルなども趣があります。店内は若い女性客が多い印象でした。ランチメニューは一種類で、スパイスをまぶして焼いた鶏のもも肉とキャベツ、ひよこ豆サラダなどに、ご飯と味噌汁が添えられていました。

そこから函館山を下って五稜郭の方向に向かい、富岡町にある NPO 法人「スプリングボードユニティ 21」に折谷久美子理事長を訪ねました。折谷さんは、みなとまちづくり女性ネットワーク函館代表やみなとオアシス函館運営協議会副会長のほか、シーニックバイウエイ北海道函館・大沼・噴火湾ルート事務局長、シーニック de ナイト実行委員会、函館花いっぱい道づくりの会、函館ウェルカムロードの会の代表として幅広く精力的に活動してこられました。4年前には活動拠点となる現在の建物を新築。内部は停電の際にも対応できるようにガ

スコンロを備え、焼きそばなどの調理やキャンドル製作などに利用されています。そして春から秋にかけては国道・道道の沿道に咲く花の手入れを行い、冬季はワックスキャンドルを灯す〈シーニック de ナイト〉の活動を続けています。

このような旺盛な活動の原点は、新婚当時に大勢の仲間と楽しそうに街づくり活動をしているご主人を見てまちづくりに興味を懐いたこと、それに加え夜遅く帰宅したご主人から翌日早朝までに役所に提出する書類を旧式のワープロで仕上げる作業を言いつけられることが常態化したことで事務処理能力が向上したことですと笑顔で話されました。その後、小学生のお嬢さんたちを函館港まつり「いか踊り」に参加させるために小学校 PTA の仲間と平成 11 年（1999）に「スプリングボードユニティ 21」を結成、さらに活動資金を得るために平成 16 年（2004）に NPO 法人化しました。「スプリングボード」とは跳び箱の跳躍板ちようやくばんのことで、飛躍や発展の“きっかけ”を意味します。「ユニティ」とは、統一・まとまり・合同を意味しますので、「スプリングボードユニティ 21」の名前は「21 世紀へ向け、力を合わせ、心一つにして、楽しみながら目標に向かって活動していこう」という意味を込め、女性や市民が気軽に「まちづくりに参加」できることを目的に設立したとお聞きしました。それに伴って活動範囲も拡大しました。「いか踊り」では優勝をはじめ数々の賞を受賞してきました。設



NPO スプリングボードユニティ 21 のオフィス(上)と、理事長の折谷久美子さん。みなとまちづくりマイスターでもある(左)

立以来、今日まで「いか踊り」の準備のために、その前日に行われる花火大会を楽しむ機会がなかったそうです。何よりもまちづくり活動にかける情熱が大きかったということでしょう。

平成 14 年（2002）5 月、港町に水深 14m の岸壁が整備され、函館に初めて大型豪華客船 5 万 t 級の「クリスタルハーモニー」（現在の飛鳥Ⅱ）が寄港した時の歓迎の「いか踊り」の思い出を、折谷さんは次のように語っておられます。

「かつて函館は、北洋船団の入・出港時には何万人もの市民が大送迎を行っていたこともあり、歓迎の気持ちと、おもてなしの心をこめて、市民約 1,000 人で「いか踊り」で見送りました。その時は〈see you again have a good nice trip〉の横断幕も作りしました。それにしても、生まれて初めて観た客船は、想像をはるかに超えた大きさと、海からマンションが突然現れ近寄ってきたような感じでした」

あれから 24 年経ち、そろそろ後輩にバトンタッチをする時期を迎えたといえます。それでも、拠点となるこの建物を中心に、これからの人生設計に相応しい活動を続けられていくことでしょう。それを期待して函館の取材を終えました。

（関口信一郎 記）



平成 14 年（2002）5 月、港町ふ頭で豪華客船「クリスタルハーモニー」を見送る人々（折谷久美子さん提供）

【今回の巡回ルート】



- ①啄木小公園 → ②石川啄木一族の墓 → ③宮崎家一族之奥城 → ④与謝野 寛・晶子の歌碑 → ⑤石川啄木居住地跡
- ⑤石川啄木居住地跡 → ⑥函館公園・市立函館博物館 → ⑦亀井勝一郎 文学碑 → ⑧五島軒 → ⑨北海道第一歩の地碑
- ⑨北海道第一歩の地碑 → ⑩FMいるか → ⑪元町配水場 → ⑫ごはんおやつシンプル

【今回の巡回ミニ情報】

地図⑥

函館公園

函館市青柳町 17

TEL 0138-22-7255(管理事務所)

営業時間 園内施設によって設定

※明治 12 年(1879)に開園された近代日本を代表する都市公園。園内には、「函館公園ビクターセンター」「旧函館博物館一号・二号」「動物施設」「こどものくに」「中央大噴水」「市立函館博物館」がある。

地図⑫

ごはんおやつシンプル

函館市船見坂 7-24

TEL 0138-76-8930

営業時間 11:30~20:00

(ランチは 14:00 まで)

定休日 水曜日、第1・3木曜日

※週替わりのランチプレートが看板の古民家カフェ。料理は全て手作りの美味しさで、栄養バランスもしっかり。

地図⑥

市立函館博物館

函館市青柳町 17-1

TEL 0138-23-5480

営業時間 4月~10月 9:00~16:30

11月~3月 9:00~16:00

定休日 月曜日・毎月最終金曜日(特別展・企画展等期間中は除く)、祝日

(夏季、GW、11月3日は除く)、年末年始、その他展示替えによる臨時休館

※考古資料、アイヌ風俗画などの美術工芸資料、ペリー来航や箱館戦争などに関する歴史資料、函館の古き良き時代を物語る民俗資料、地質や鉱物、化石資料、北海道内外の動植物資料などが収蔵・展示されている。

地図⑧

五島軒

函館市末広町 4-5

TEL 0138-23-1106

営業時間 ランチ 11:30~14:30

ディナー 17:00~20:00

定休日 火曜日(一部期間除く)、1月1日・2日休店

※北海道初の国登録有形文化財に指定された明治 12 年(1879)創業の老舗洋食レストラン。店内はシーンに合わせ、伝統を守り継ぐカレーや洋食、デザート「ラウンジフロア」、コース料理を堪能できるヨーロッパ調の「レストランフロア」、特別な時間を過ごせる個室空間の「プライベートルーム SEKKA」に分かれている。

<連絡先>

NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2-17 セントラル札幌北ビル 5 階

e-mail アドレス mail@minatobunka-npo.info

ホームページ <https://minatobunka-npo.info>